

念の写真も撮ってもらいました。

今回は前日銀総裁の速水様、JR東日本の住田様、日本製粉の澤田様が揃ってご出席になられ、合計で十二名のご参加でした。

いつもの通り、支部長の荒木様から開会のご挨拶をいただいた後、幹事長の安東様が会報「たつみ」が再来年一月発行分で第七十号となるので、皆様からのご意見やできればご寄稿をお願いしたいとお話がありました。

武岡様のご発声で一同乾杯し、会食となりました。

和気藹々の雰囲気の中で、秋の旬の食材を使った和食のお料理をいただきながら、小泉自民党の衆院選大勝利、日本経済のデフレからの脱却期待、各界指導者の倫理観などホットな話題に関するいろいろな角度からのご意見をお伺いしているうちに、瞬く間に予定の時間が過ぎました。

最後に事務局から新年例会について報告があり、ご出席の各位それぞれ再会を約し合ってお開きと

辰巳会 会員だより

学友「堀内信生君」を紹介します。

柳田 辰巳

辰巳誌六十九号より首記堀内信生君に無理を御願ひして、生物学の最先端技術を連載執筆して戴く事と成りました。ここで同君の経歴を紹介したいと存じます。同君と小生は岐阜高等農林の農芸化学科時代学友として机を並べた仲です。今年彼は文芸社よりユーモア溢れる最新生物学の「人間と言う名の動物」を出版しました。同本中の経歴を次に引用致します。

大正十五年長野県塩尻市生まれ
昭和二十七年東北大学理学部卒
同年三共(株)入社 昭和五十六年同社退社

(この間に昭和三十六年農学博士号獲得)

同年北海三共入社 平成八年同社退社

平成十七年度 東京支部 秋の例会御出席者名簿

平成十七年十月二十日(木)

ざくろ京橋店

(順不同・敬称略)

速水優	池田宗吉
速水けみ	荒木正雄
西川明子	武岡輝彦
森美子	木村隆昭
住田正二	荒澤田浩
安東浄	荒木忠男
	以上十二名

森に暮らして(1)

堀内 信生

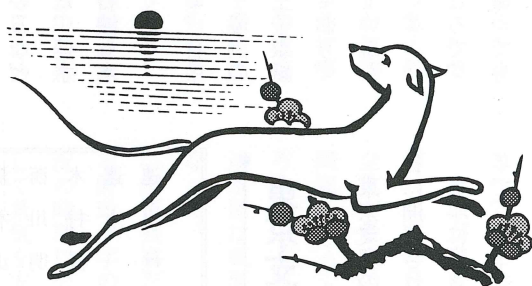
東京から中央高速を走ってくる
と約二時間、車の右側の車窓にキラキラと湖面を輝かせて光っている諏訪湖が見えてくる。数年前までアオコの発生で淀んでいた湖も、最近では環境整備のお陰で、だいぶ綺麗になったようだ。高速は諏訪湖の左側を大きく迂回して、本州中央の分水嶺の山並みにぶつかる。この分水嶺を境にして、水が南に流れれば天竜川に合流して太平洋に、北に流れれば信濃川に合して日本海に注ぐ。中央高速はこの山並みにぶつかる手前で、二つに分かれ、左に進むと伊那谷に入り、伊那、飯田を経由して名古屋に至る。右側に進むと、分水嶺の山並みをトンネルで抜け、松本平に通じている。その道は塩尻、松本を経由して長野に向かっていく。

私の暮らす塩嶺高原は、この分岐点で松本方面に向かい、一番初めのインターである岡谷インターで下りる。そこから国道二十号線

に出て塩尻峠に向かう。塩尻峠は車道の最高点が標高一〇一二メートル。ここは昔、明治天皇が行幸の折、乗物から下りて景色を眺められたとのことで、「御野立ち」と呼ばれ、それを記念する石碑が建っている。

たしかにここは目の下に諏訪湖が眺められ、八ヶ岳連峰と南アルプス連峰の間に、天気が良いと、ひととき高く富士山が拝める。峠を下りること約一キロ、左折してカラマツ林を車で約十分も登ると、そこが塩嶺高原と呼ばれる台地である。標高は約千メートル、百年を越す赤松の疎林のなかにカラマツ、ニセアカシア、ヤマザクラ、シラカバ、クヌギ、ナラなどの落葉樹が繁り、林もこれだけ成熟すると林内は灌木の繁る余地はなく、林床は十センチ程度のササが生えていて、きわめて歩きやすい混交林である。

しかしほとんど夏期用の住宅のためか、人影はない。この一帯は、いつの頃からか狩猟禁止区域となっていて、実に鳥獣が多い。私にもう少し鳥の区別がつけばと嘆いているがカッコウ、ウグイス、ホトトギス、キジを始めとして、あと十数種の鳥が鳴いている。獣の方もリス、ウサギ、カモシカ、イノシシさらに塩尻峠にはクマ出没注意の看板まで立っている。北海道の山歩きではよく注意され、クマ避けのスズをつけて歩いたが、ここでもそのスズが役立つとは思っても見なかった。しかし、内地のクマはツキノワグマであろうから、ヒグマほど獐猛ではないだろうと、たかをくくって平気で歩いている。それにしても昔は、この辺にカモシカがいたり、クマがいたりすることはなかったはずだが、先日もペランダで本を読んでいると、下の藪でガサガサ音がする。ふと見るとカモシカが一頭、悠々と藪を横切っていた。我々の子供の頃は、カモシカと言えば北アルプス



の森林限界あたりに住んでいるものと認識していたが、これはいったいどうしたことだろう。

朝はやかましいほどの鳥の声で目が覚める。ここに来て始めて経験したが、鳥は日の出前にもっとも盛んに鳴くようだ。お陰で歳をとって早く目覚めると同時に、鳥にも起こされ、早寝早起き、誠に健康な毎日である。天気が良いと、約四キロほど離れたところに私の生家があるので、そこで約十坪ほどの畑作りを始めた。作り始めたものはまず枝豆（私は枝豆とビールがあれば、一年中他は何も要らない）、少々のキウリ、ナス、ピーマンなど、今までよく農薬の講演で日本国中を回り、病害虫の防除の話などをしてきたが、いざ自分が始めてみると、まず種蒔きからして全くわからない。いかに机の上、本のなかの話しかしていなかったかと、今になって恥じ入っている次第である。

十坪ほどの畑であれば、毎日の手入れも必要でなく、十分暇がで

きる。天気でもよいと、もういけない。脚がうずくし、心ははるかに山の上。それ！とばかりに飛び出す。もつともよく行くルートは、家を出て塩尻峠を経て尾根伝いに「高ボッチ」登山である。標高差約六五〇メートル、片道約十三キロの行程である。

信州の中央に、八ヶ岳中信高原国立公園があり、ここに八ヶ岳以外に霧ヶ峰高原、美しが原高原、鉢伏・高ボッチ高原といういずれも標高約二千メートルの高原が三つ広がっている。霧ヶ峰と美しが原は、共に有名でそのため訪れる人も多く、特に夏は銀座を思わせる人込みとなる。ところが、鉢伏・高ボッチはそれほど知名度もなく、比較的静かである。特に私の山荘から歩いていけるところが気に入っている。この三つの高原は、いずれも同じようなところに位置するため、周囲の景色から植物相までほとんど変わらない。

まず景色は、南は富士山から南アルプス、中央アルプス、北アル

プス、八ヶ岳とここで眺められる三千メートル級の高山は、日本第一位の富士山、第二位の南アルプスの北岳、第三位の奥穂高岳を含めて十三座を数える。おそろくここを除いて、他の場所ではこれだけ日本有数の高山を眺められる場所はないだろう。

高ボッチというのは妙な名前であるが、塩尻地方に巨人の伝説があり、その名を「デイラボッチ」と言った。高ボッチの一部に、この巨人の足跡と称する窪地があり、そのためこの名がついたと言われている。ここは鉢伏まで見渡すかぎりの草原で、一部分の低い灌木がある。この高原の春は、まずこの灌木（コナシ）の真っ白い花によつて始まる。コナシは、蕾がピンク色であるが咲くと真っ白となり、芳香を放つ。五月、この高原を訪れると、山全体がこの芳香に包まれている。コナシは高地のコナシ平も有名であるが、上高地の標高も約千五百メートル、信州では大体このくらいの標高が適地

なのだろう。

コナシの花が終わりに近づくと、こんどは草花ではスズラン、キンポウゲ、フデリンドウ、オオヤマフスマ、クリンソウが咲き出し、灌木ではレンゲツツジがその姿を競い出す。遠くから見ると全山薄赤色に染まる。現在はレンゲツツジも終わり、コウリンカ、ヨツバヒヨドリ、ノアザミ、ハナニガナ、カラマツソウ、ウツボグサ、ヤナギラン、ハクサンフウロウ、ヤマホタルブクロ、ヤマオダマキ、カラナデシコ、イヌゴマ、シモツケソウ、ノブキトラノオ、マツムシソウ、タニギクなどが全山に咲き乱れ、お花畑を作っている。この高ボッチには別ルートから自動車道路もでき、それが鉢伏まで続いているので土、日にはやはり訪問者も多い。

もう一つ気に入ったルートが、高ボッチまで車で登り、そこに車を置いて鉢伏まで往復してくるコースである。標高差三百メートル、片道九キロのコースである。標高

差三百メートルしか変わらないのに鉢伏まで行くと、植物はコケモモ、ウスユキソウ、シヨウジヨウバカマ、トモエシオガマ、ネバリノギラン、テガタチドリが見られ、現在はニッコウキスゲの真っ盛り。晴天の日は、前後左右に三千メートル級の高山に囲まれ、カッコウ、ウグイスの声を聞きながら、お花畑のなかを「雲の上の散歩」としゃれ込む。まさに「天国の散歩道」である。しかしあるく人はいない。皆忙しげに車で走り抜ける。車で走って周囲の景色、草花、鳥の声などが聞こえるだろうか。こんないい気分を知らない人々を気の毒に思う。それにしても山は、なぜ四季、極彩色の衣裳を次々とこのように披露するのだろうか。理屈では虫媒花で説明がつくかもしれないが、はたしてそれだけか。お花畑に寝ころんで青い空に浮かぶ入道雲を見ていると、違う次元の世界に迷い込んでいるように感じる。

(一九九八年七月十日記)

辰巳会 各位殿

拝啓

亡父 健作儀 平成十七年二月十一日 九十年の生涯を全うし永眠いたしました。

ここに生前中のご交誼を深謝し衷心より御礼申し上げます
尚 葬儀並びに四十九日忌明け法要を近親者相寄り
お陰をもちまして万端滞りなく済ませる事が出来ました
つきましては親しくご挨拶申し上げるべき筈の処
略儀失礼乍ら書中をもって御通知申し上げます

敬 具

平成十七年三月

千六五九一〇〇七一

兵庫県芦屋市前田町七一十四

電話(〇七九七)三一七五二八

喪主 長男 藤 田 武 利

物 故 者 名 簿

御 芳 名	死 亡 年 月 日	享 年	鈴木商店との関係
藤 田 健 作	平成17年2月11日	90才	故柳田富士松氏の御子息
岡 田 賢 一	平成17年2月14日	82才	
横 田 周 作	平成17年4月2日	89才	太陽産業株式会社